

# 磯焼けによる藻場の減少 -カジメ海中林を例に-

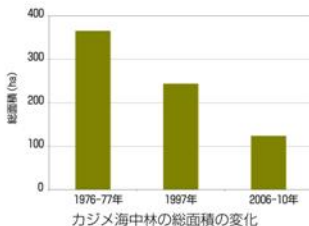
近年、高知県沿岸では藻場が広い範囲で減少、あるいは消失する「磯焼け」と呼ばれる現象が広がっており、大きな問題となっています。この「磯焼け」にも海の温暖化が大きく影響しているといわれています。

## ■藻場の役割

コンブの仲間やホンダワラ類などの海藻や海草が生い茂る場所は「藻場」と呼ばれており、魚類や甲殻類、イカなど、様々な生き物のすみかや餌場、産卵場となっています。藻場は沿岸の生態系にとってとても大切な存在です。

## ■カジメ海中林の減少

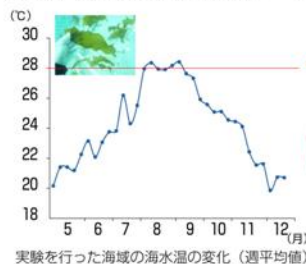
高知県の沿岸にはかつてカジメというコンブ類の海藻を主とした「海中林」と呼ばれる藻場が広い範囲にみられました。しかし、カジメ海中林の分布は最近30年ほどの間に大きく変化しており、現在では面積が大きく減少しています。カジメ海中林が衰退した時期は、海水温が上昇した時期と一致しており、海中林の盛衰には水温変動が密接に関わっていると考えられています。



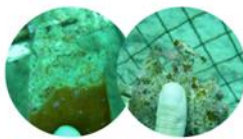
## カジメの生残・生長と海水温の関係

高知の西南部に位置する大月町の地先で、カジメを移植して生残・生長状況と海水温の関係を調べる実験を行ったところ、移植したすべての株が夏季の高水温時に葉先が溶け、秋には破れて藻体の長さ

が減少しました。カジメは28℃よりも高い水温では、成長できないことがわかっており、現在の高知の海は、夏場の海水温が高く、カジメにとって厳しい生育環境であると考えられます。



### カジメの生育限界水温



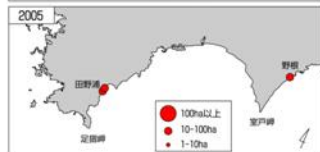
▲ 高水温の影響で葉先が溶けたり、ぼろぼろになったカジメ



▲ 磯焼けした海底



▲ 黒潮町のカジメ海中林



高知沿岸におけるカジメの分布状況の経年変化  
 平岡2006を引用